

JForest

森と林の自然から

2018

第46号



〈編集・発行〉

最上広域森林組合

事務所：山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川270の1

やまびこ だより

迎春



目次	新年のごあいさつ ……	2
	森林資源の循環利用について ……	3
	特産物加工場より ……	4

熊野神社の大杉
(真室川町)

樹高 27 m 幹周 5.3 m

新年のごあいさつ

最上広域森林組合 代表理事組合長

佐藤 景一郎

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、組合員各位に於かれましては、日頃から森林組合の活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜りまして、改めまして感謝と敬意を表するものであります。

昨年を振り返ってみますと、記憶に残るいろいろな出来事がありました。北朝鮮からのミサイル発射実験は、日本の安全危機体制への不安や改めて安全管理の構築が求められています。また、大企業である東芝が粉飾決算の発覚がきっかけとなり、巨額の損失を出し、東証二部へ転落というニュースも飛び込んで参りました。

森友、加計学園問題では、「付度」という言葉が連日メディアに取り上げられ、今もこの問題の追及がなされております。いずれも企業の不祥事はコンプライアンスやガバナンスの欠如があり、その重要性が再認識された一年でありました。

嬉しいニュースとしては、藤井聰太四段が、二十九連勝という快挙をあの若さで成し遂げたのは、国民の誰もが称賛した出来事でありました。

一方、林業界にあつては、新庄市の工業団地で大型集成材工場が本格稼働致しました。また、バイオマス発電、地元製材工場のベルト生産施設建設が進んでおり、来年には本格的に稼働して参ります。このように、木材の出口において大きな需要が出てきたことは喜ばしい事ではあります。大きな課題としてA材の販路が問題視され、価格もB材等に引つ張られてなかなか上昇しない傾向にあります。このような状況は、所有者への還元の意味合いからも問題であり、所有者の生産意欲の事も絡めて、A材の販路の問題について業界あげて取り組んで行かなければならないと考えられております。また、同時に各市町村において公共木造建築物が推奨され建築がなされており、川上から川下が力を合わせて需要の開拓に努めて行く事が重要と考えております。

山形県に於きましては、「山形県水資源条例」や「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」通称、森林ノミクス推進条例の制定を致しました。

これらの推進によって、素材生産量は、二十八年度の統計では約六五〇

〇〇立方増の約四三〇〇〇立方となっており拡大傾向にあります。今後、安定供給や資源循環型林業の意味合いからも再造林が、不可欠になってまいります。しかしながら、材価の低迷や後継者不足などの理由から現在は、三割程度の再造林率となっており危機的状況にあります。この現象を解決すべく県では、緑環境税からの補助や県独自の支援によって一〇〇%補助になっており現在は、負担金がない再造林が可能であります。

今後は、各協力団体が構成する再造林推進機構の設立によって、各流通段階から協力を頂戴し、将来にわたって次世代に続く林業を目指している下地作りが出来上がった気が致しております。また、その後の保育への支援もお願いして参る所存です。

併せて、林業と工業が林工連携して新しい分野への木材の使用が可能になるように推し進めており、セルロースナノファイバーの研究による住宅の外壁材や防音、断熱材の開発、新しい林業機械の開発などに向けて小さな一歩ではありますが、画期的な研究の一步が進もうとしており、我々、森林組合に於いても情報の提供や実施段階におけるテスト環境の提供など出来る協力を惜しまない方向で考えております。

また、森林経営計画の策定は急務であり、すべての組合員の所有山林の経営計画の策定が目標でありますので、今後もITの活用や必要なソフトの導入によって簡易に策定が出来るように努力し、組合員の皆様にも啓蒙していきたいと考えております。

また、国レベルでの環境税の導入の話題が、昨今、聞かれるようになり森林組合などからの粘り強い要望がようやく実ってきたような気が致しております。環境という観点から林業に目を向けていく事が徐々に拡大し、環境という側面からも理解と支援が得られれば、ますます社会的地位の向上に寄与出来るのではないかと期待しております。

我々森林組合も組合員の皆様とともに林業の再生・地域の再生に頑張っております。今後ともよろしくご指導頂きますようお願いいたします。

森林資源の循環利用(再造林)について

再生可能な資源である森林資源は、人工林では伐採期を迎え皆伐した後、再造林（再度植栽）を行うことで保持されます。「伐ったら植える」を合い言葉に、健全な森林サイクルを維持することで、森林の持つ公益的機能の発揮と森林資源の循環利用が可能となります。

しかし、近年では人工林の伐採跡地において、造林（新植）せず放置してしまう土地が増えつつあります。再造林が行われない（進まない）原因として多くの森林所有者は、所有規模が小さいことや、再造林にかかる初期投資費用の負担・林業経営のスパンが長年に亘ることなどから、森林の経営継続に意欲を持ってなくなり、なかなか再造林に踏み切れない状況にあります。

再造林が進まない現状を変えていくため、山形県では国の補助事業とやまがた緑環境税を活用し、再造林に係る経費を補助する制度をスタートし、今後は、県内の再造林率100%の達成に向け基金の創設・運用する機関の設立に取り組んでおります。

組合員の皆様へ

皆伐（主伐）してからも植えていない山林がありましたらスギを植えてみませんか？

現在、山形県では再造林に対して補助金を出しております。この補助金を活用することで、スギ苗木の購入費用からスギ苗木を植える実行経費までを補助金でまかなうことで、組合員の皆様に金銭的負担をかけず伐採跡地にスギを植えることが可能です。

再造林の補助金を受けるには様々な採択要件等がございますので、お気軽に当組合森林整備課までお問い合わせ下さい。



施行前



施行後



特産物加工場より

春の植菌の時期が近づいています 種駒及びオガ菌の購入なら当組合に!!

森産業

1,000 ケ入 (9.2mm)

税込 **3,294円**

なめこ1号 晩生、なめこ2号 中生
なめこ3号 早生、しいたけ 290号



余目河村

500 ケ入 (8.5mm)

税込 **1,485円**

なめこ、しいたけ、ブナカノカ、ヒラタケ
ムキタケ、クリタケ、エノキタケ、キクラゲ
タモギタケ

※その他、大貫・日本きのこセンター等もご希望により取り寄せ可能です。
(少量の場合は送料が個人負担となる場合があります。お早めにご連絡下さい)

トンビマイタケ (余目河村)

菌床玉 6コ入 1ケース

税込 **4,320円**



マイタケ (余目河村)

原木 5本入 1ケース

税込 **5,832円**



トンビマイタケ (最上まいたけ)

菌床玉 1コ

税込 **600円**

★委託加工では、一年を通して生の小豆、ささぎ豆、黒豆を缶詰に出来ます。★

- ・各豆 1 升に対して砂糖 2 kg をご一緒にお持ち下さい。
- ・ 1 缶 250 円 生豆 1 升につき約 12 ~ 14 缶 3,000 円から 3,500 円程度



月曜日～木曜日 は 午後 5 時 まで
金曜日 は 午 前 中 まで

受付 しております



★購買品では、長靴・地下足袋・笹刈刃・鉈・鋸・鎌等の林業資材を中心に★
多くの商品を取り扱っております。

当店で取り扱っていない林業関係の商品もご相談頂ければ取り寄せ販売も可能です。
ご来店心よりお待ちしております。

組合員の皆様へ

住所や氏名に変更が生じた際は、手続きが必要となりますので、当組合までご連絡下さい。

最上広域森林組合

TEL 0233(62)2102

FAX 0233(62)2953

メールアドレス soumu@mogami-morikumi.or.jp
HPアドレス mogami-morikumi.or.jp

